

3 国際スポーツ大会の誘致・開催

都民のスポーツへの関心喚起や東京のプレゼンス向上に向けて積極的に国際大会の誘致、開催を推進する。

(1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント

ア 東京マラソン 2024

東京マラソンは、東京の魅力を国内外に発信するとともに、スポーツ振興や地域活性化の契機とすることを目的に、国内外からのランナーをはじめ、ボランティアや沿道の観衆など多くの人々が参加し、「東京がひとつになる日。」として開催されている。

また、平成 24 年にはアボット・ワールドマラソンメジャーズに加入し、世界 6 大マラソンの一つとして認定されるなど、名実ともに世界最高峰の大会に成長した。

※ 一般財団法人東京マラソン財団との共催により実施

(ア) 東京マラソン2024

- ・日 程 令和 6 年 3 月 3 日 (日)
- ・定 員 マラソン：3 万 7, 500 人 10. 7km：500 人
- ・コ ー ス 東京都庁～水道橋～上野広小路～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～田町～日比谷～東京駅前・行幸通り
(日本陸上競技連盟/公認コース、
ワールドアスレティックス・A I M S / 認証コース)



©東京マラソン財団
東京マラソン2024コース図



©東京マラソン財団
東京マラソン2023スタート写真

(イ) 東京マラソンE X P O 2024・ランナー受付

- ・日 程 令和 6 年 2 月 29 日 (木) ～ 3 月 2 日 (土)

【令和 4 年度実績】

<東京マラソン2023>

- ・日 程 令和 5 年 3 月 5 日 (日)
- ・出 走 者 マラソン：38, 231 人、10. 7km：192 人
- ・完 走 者 マラソン：36, 560 人 (完走率 95. 6%)、
10. 7km：191 人 (完走率 99. 5%)

<東京マラソンE X P O 2023・ランナー受付>

- ・日 程 令和 5 年 3 月 2 日 (木) ～ 3 月 4 日 (土)



イ マラソン祭り

東京マラソンを「単なる大規模マラソンにとどめることなく、東京の魅力を世界に発信できる祭典にしていく」という理念の下、東京マラソンの開催に合わせ、地域の人々が参画した様々なイベントを展開する。

- ・ランナー応援イベント（東京マラソンコース沿道における音楽演奏、ダンス、伝統芸能等のパフォーマンスによる応援）
- ・メイン会場イベント（スポーツ体験、観覧イベント等の実施）

【令和4年度実績】

＜ランナー応援イベント＞

コース沿道の18会場にて、地元団体、都民等が参加しランナーを応援（93団体、2,184人）

ウ 東京レガシーハーフマラソン 2023

東京2020大会のレガシーを末永く残していけるよう、パラリンピックマラソンコースを活用した「東京レガシーハーフマラソン」を、一般財団法人東京マラソン財団とともに2022年秋に創設した。

本大会は、障害のある方を含め、一般ランナーからエリート選手まで多くのランナーが参加しやすいハーフマラソン大会として開催されている。

※ 一般財団法人東京マラソン財団（主催）との共催により実施

(ア) 東京レガシーハーフマラソン2023

- ・日 程 令和5年10月15日（日）
- ・定 員 1万5,000人
- ・コ ー ス

＜ハーフマラソン＞

国立競技場前（外苑西通り）スタート～富久町～水道橋～神保町～神田～日本橋（第一折り返し）～神田～神保町～大手町・内堀通り（第二折り返し）～神保町～水道橋～富久町～国立競技場フィニッシュ

（日本陸上競技連盟/公認コース、ワールドアスレティックス/認証コース）



©東京マラソン財団
東京レガシーハーフマラソン2023 コース図



©東京マラソン財団
東京レガシーハーフマラソン2022 スタート写真

<車いす>

国立競技場スタート～富久町～水道橋～神保町～須田町～上野広小路（第一折り返し）
～日本橋～銀座～日比谷～内幸町（第二折り返し）～須田町～神保町フィニッシュ
（日本陸上競技連盟/公認コース、ワールドアスレティックス/認証コース）



©東京マラソン財団

東京レガシーハーフマラソン2023 車いすコース図



(イ) 東京レガシーハーフマラソンEXPO 2023・ランナー受付

・日 程 令和5年10月13日（金）、14日（土）

【令和4年度実績】

<東京レガシーハーフマラソン2022>

・日 程 令和4年10月16日（日）

・出 走 者 ハーフマラソン：14,238人 車いす：18人

・完 走 者 ハーフマラソン：13,239人（完走率93.0%）車いす：18人（完走率100%）

※ 第1回大会である東京レガシーハーフマラソン2022は、「セレブレーションマラソン（協力：IOC）」に位置づけて開催した。

<東京レガシーハーフマラソンEXPO 2022・ランナー受付>

・日 程 令和4年10月14日（金）、15日（土）

Ⅰ GRAND CYCLE TOKYO

環境にやさしく、健康にもよい自転車を更に身近なものとするため、「GRAND CYCLE TOKYO」という名前の下、様々な自転車に関するイベント等を進めている。

自転車ライドイベントの「レインボーライド（臨海部）」は、東京ゲートブリッジを新たにコースに盛り込むなど規模を拡大するとともに、「マルチスポーツ」も同日に開催する。

また、東京2020大会でロードレースの会場となった多摩地域において「THE ROAD RACE TOKYO」及び「チャレンジレース in 味スタ」、「STADIUM FESTA」を開催する。

さらに、自転車の活用促進・安全啓発を図るため、都内各地において「GRAND CYCLE TOKYO CARAVAN」を実施する。



(7) 自転車ライドイベント「レインボーライド」

- ・日 程 令和5年11月23日（木・祝）
- ・コ ー ス （右図ほか全3コース）
- ・内 容 ロング（約32km）、ミドル（約19km）、
 ショート（約8km） 定員約5,000人

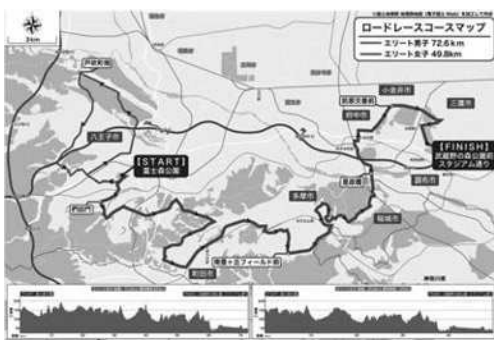


(4) スポーツ体験イベント「マルチスポーツ」

- ・日 程 令和5年11月23日（木・祝）
- ・会 場 青海フィニッシュ地点、テレコムセンタービル
- ・内 容 様々なスポーツ・VR体験、競技デモンストレーション 等

(9) 自転車ロードレース「THE ROAD RACE TOKYO」

- ・日 程 令和5年12月3日（日）
- ・コ ー ス （下図のとおり）
- ・内 容 カテゴリー：エリート、パラサイクリングタンデムタイムトライアル



(5) 都民参加型レース「チャレンジレース in 味スタ」

- ・日 程 令和5年12月2日（土）
- ・会 場 味の素スタジアム構内外周路特設コース
- ・内 容 スポーツサイクル初心者から愛好家まで、一般サイクリストが参加できる
 各種レース体験プログラム

(6) 地域の魅力発信イベント、サイクルイベント「STADIUM FESTA」

- ・日 程 令和5年12月2日（土）、3日（日）
- ・会 場 味の素スタジアム
- ・内 容 地域の特産品、グルメ、自転車関連ブースの出展 等

(7) サイクル活用推進事業「GRAND CYCLE TOKYO CARAVAN」

自転車の活用促進及び安全啓発を図るため、都内区市町村と連携し、ニーズを踏まえた各種サイクルイベント（子供自転車教室、バーチャルサイクリング、BMX体験等）を令和5年夏から秋を中心に、通年で実施する。

【令和4年度実績】

<レインボーライド>

- ・日 程 令和4年11月23日（水・祝）
- ・走 行 者 約2,000人（ロング・ミドル・ショート・海の森コース合計）

オ 第1回WBSC女子U15ソフトボールワールドカップ2023【新規】

女子U15ソフトボールワールドカップは、オリンピックへの出場を念頭にした若手選手の育成強化、若者世代への競技の普及振興を目的に、世界野球ソフトボール連盟（WBSC）が新たに創設した大会で、第一回大会が東京で開催される。

本大会の開催は、東京・日本のみならず、競技に取り組む世界中の若手選手の未来を切り拓き、同年代の若者たちにも夢と希望を与え、若い世代の選手の世界レベルでの活躍の場を拓げるとともに、東京の子供たちが同世代のトップ選手の活躍に触れる機会を創出し、ジュニア世代のスポーツ振興に寄与する。

また、子供たちと各国選手との国際交流や、来日した選手や家族、関係者に対し、東京の魅力発信をするなど、スポーツのみならず東京の発展に資することから、大会の成功に向け、主催者とともに準備を進める。



<第1回WBSC女子U15ソフトボールワールドカップ2023>

- ・日 程 令和5年10月21日（土）～10月29日（日）
- ・会 場 駒沢オリンピック公園総合運動場硬式野球場、世田谷区総合運動場野球場
大田スタジアム
- ・出場チーム 世界5大陸から予選を経て出場権を獲得した各国・地域を代表する15歳以下の女子ソフトボール代表12チーム
- ・大会期間中の取組

子供向け（都内小中学校対象）の試合観戦招待や東京都選抜チーム等と各国代表チームとの親善試合、来日した選手向けの伝統文化体験など

(2) 国際スポーツ大会の誘致・開催支援

ア 国際スポーツ大会の誘致・開催支援

東京のスポーツ振興及び都市のプレゼンスの一層の向上を図るため、都内で国際スポーツ大会の開催を目指す競技団体等に対し、大会の誘致検討のための調査等、誘致活動及び開催を支援する。

【令和5年度支援事業の概要】

	誘致支援（令和2年度から開始）	開催支援（令和3年度から開始）
主な申請要件	①都内で開催 ②国際競技連盟が主催・公認し、公益財団法人日本オリンピック委員会・公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会の各加盟競技団体等、国内統括競技団体が主催・共催・主管 ③観客1万人以上又は参加国10か国以上 ④都と連携したスポーツ振興事業の実施（観戦招待等） ⑤令和6年度末までに開催地が決定	①～④同左 ⑤令和5年度内の東京開催が決定している大会
支援内容	経費支援（上限400万円）※、応援レターの発出等	経費支援（誘致支援額を含め、上限3,000万円）※、東京都広報媒体による大会PR等
対象経費	誘致活動に係る経費（広報宣伝費、印刷製本費、翻訳費、渡航費・宿泊費等）	会場関係費（会場借上費、会場設営費及び機材費）、警備・安全対策費（コロナ対策費を含む）、競技運営費、広報宣伝費、その他大会開催に不可欠な経費

※経費支援は対象経費の2分の1を支援

	調査等支援（令和5年度から開始）
支援内容	経費支援（上限300万円）、都立施設との連絡調整等
対象経費	国際大会の誘致を検討するために必要な調査等に係る経費（渡航費、宿泊費、通訳・コンサルタント・専門家等の人件費、委託費等）

【令和4年度実績】

（誘致支援）

競技	大会名	開催時期	会場
視覚障害者柔道	IBSA柔道グランプリ東京大会	令和5年12月4日～5日	東京体育館
車いすラグビー	三井不動産 2023 ワールド車いすラグビーアジア・オセアニア チャンピオンシップ	令和5年6月29日～7月2日	東京体育館

（開催支援）

競技	大会名	開催時期	会場
陸上	セイコーゴールドデングランプリ陸上2022東京	令和4年5月8日	国立競技場
パルクール等	アーバンスポーツTOKYO2022	令和4年10月14日～16日	有明アーバンスポーツパーク
パラバドミントン	ヒューリック・ダイハツBWFパラバドミントン世界選手権2022	令和4年11月1日～6日	国立代々木競技場

イ 国際大会の誘致に向けた海外発信

国際スポーツ大会の更なる誘致に向け、東京のスポーツ資源と都市の魅力を特設サイトや国際会議等で発信する。

(3) 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック

ア 東京2025世界陸上

令和4年7月、世界陸上競技選手権大会の令和7(2025)年の開催地が東京に決定した。東京都は、大会の招致主体である公益財団法人日本陸上競技連盟(以下「日本陸連」という。)や、一般財団法人東京2025世界陸上財団(以下「世界陸上財団」という。)などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。

(ア) 大会概要

世界陸上競技選手権大会は、ワールドアスレティックス(WA)が主催し、2年毎に開催される、陸上競技の世界最高峰の大会である。第1回は1983年にフィンランドのヘルシンキで開催され、2025年の大会は20回目の大会であり、東京での開催は1991年以来、日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目となる。過去大会においては、テレビやライブ配信等により世界で約10億人が視聴し、3,000名規模のボランティアが参加している。

- ・日程：2025年9月13日～21日
- ・種目数：49種目(男子24種目、女子24種目、男女混合1種目)
- ・選手数：約210か国・地域、約2,000人
- ・競技会場：東京・国立競技場(マラソン、競歩は都内で実施予定)

(イ) 大会の準備運営体制

都と世界陸上財団は、大会準備・運営を着実に進めるため、世界陸上財団が大会準備・運営に関すること及びガバナンス確保等の適切な組織体制の構築に関することを担い、都はそれらに対する必要なサポートを行っていく。

東京2025世界陸上の成功に向けては、都民・国民からの信頼が重要であり、世界陸上財団においては、ガバナンス確保のため、外部有識者を含む契約・調達管理委員会の設置、実効的な監査体制及び手法の導入、情報の積極的な公開などに取り組んでいく。

さらに、都、世界陸上財団、日本陸連で外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認している。

(ウ) 大会準備に向けた都の取組

都は、大会運営組織に対して必要なサポート等を実施し、東京2025世界陸上の成功及びその先につながるレガシーの創出に向け、準備を進めていく。

イ 東京 2025 デフリンピック

令和4年9月、デフリンピックの令和7（2025）年の開催地が東京に決定した。都は、スポーツ振興に加え、ユニバーサルコミュニケーションの促進など、共生社会の実現に寄与するといった大会の開催意義を踏まえ、本大会の招致主体である一般財団法人全日本ろうあ連盟（以下「全日本ろうあ連盟」という。）などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。

(7) 大会概要

デフリンピックは、国際ろう者スポーツ委員会（以下「ICSD」という。）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会である。第1回は、1924年にフランスのパリで開催され、2025年の大会は、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催となる。手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴である。

- ・日 程：2025年11月15日～26日
- ・競 技 数：21競技（陸上・水泳・卓球など）
- ・選 手 数：70～80か国・地域、約3,000人
- ・競技会場：主に都内会場、サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施予定

(4) 大会の準備運営体制

都と全日本ろうあ連盟は、大会準備運営にかかる業務の分担を行っている。大会開催に係るICSDの窓口などの役割を、全日本ろうあ連盟が担い、競技・会場運営などの運営実務を、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団が担う。

また、関係者間における情報共有、調整・協議、必要な助言等を行う場として、全日本ろうあ連盟により令和5年2月に「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」が設置された。全日本ろうあ連盟、都、スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会、弁護士、公認会計士で構成され、情報共有などを行っている。

さらに、都、全日本ろうあ連盟などで外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認している。

(ウ) 大会準備に向けた都の取組

都は、大会の成功に向け、情報保障の充実や気運醸成などを行うとともに国際手話人材の裾野拡大を図るため、令和5年度から東京都国際手話普及促進事業を実施している。

ウ 2025年に向けた取組

(7) 気運醸成

東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックの開催に向け、特設ホームページの開設、子供を含めた幅広い世代がダンスで手話を簡単に学べる動画の制作、デフリンピック応援アンバサダーの起用、デフリンピックのエンブレム制作等を通じて、両大会の概要や開催意義等を多くの都民にわかりやすく発信し、大会を応援する気運を高めていく。ま

た、両大会を通じて、スポーツへの関心や共生社会への理解を一層深めることができるよう、両大会2年前の機を捉えた様々な取組を進めていく。

(イ) ユニバーサルコミュニケーションの促進

大会に海外から多くの選手・観客が訪れる2025年を契機に、「いつでも・どこでも・誰とでもつながる」ユニバーサルコミュニケーションを促進するため、事業者等と連携し、展示会などを活用したPRとともに、競技会場等における技術活用の実証を行う。

また、スタートアップ企業によるピッチコンテストを実施するなど、事業者と協働し、障害当事者の声を聞きながら事業者の技術開発や社会への普及を促進していく。

令和4年度は、聴覚障害者等が出場する大会等において、音声テキスト化する透明ディスプレイなどを展示、使用した。



透明ディスプレイ使用の様子

(ウ) ビジョン2025の実現に向けた取組

「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」は、東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックを通じ、スポーツの力によって東京の未来を創るため、都が目指す姿を、ビジョンとしてまとめたものである。【再掲】

本ビジョンの実現に向けて、各局等と連携した取組を展開するとともに、今後の取組事項や具体的な事業内容等に関する検討・調整を行っていく。

また、都内区市町村に対して、世界陸上及びデフリンピックの大会基本情報の周知や大会運営・気運醸成等の取組に関する協力依頼を行うとともに、区市町村主催のイベントにおける両大会のPR等、区市町村と一体となった取組を展開していく。

(4) 国際スポーツ大会のガバナンス確保に向けた取組

国際スポーツ大会のガバナンスや情報公開、都の関与の在り方などについて、東京2020大会の経験も踏まえ、将来の国際スポーツ大会に向けた改善を議論するため、令和4年12月に有識者会議を設置した。

その後、意見交換を重ね、有識者からの助言を反映した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を同年12月に策定・公表した。

また、令和5年3月に公表された国の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等の

ガバナンス体制等の在り方に関する指針」等も踏まえ、一層のガバナンス強化を図るため、同年6月にガイドラインを改定した。

【国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドラインの概要】（令和4年12月策定）

ア ガイドラインの目的

スポーツの力によって東京の未来を創っていく観点に立ち、国際スポーツ大会の運営組織に対する都の関与のあり方についての基本的な事項を整理した。

イ 大会運営組織への都の関与

都は、下記着眼点を踏まえた大会運営組織の取組の具体化に向け、助言・連携・サポートを実施する。

(ア) 大会運営組織 始動期（ガバナンス確立に向けた体制整備）

- ・役員等の適切な選任
- ・コンプライアンスの確保
- ・内部統制・外部チェック
- ・利益相反の管理
- ・情報公開
- ・その他大会の特性等を踏まえ必要と認められる取組

(イ) 大会運営組織 本格活動期（大会の成功・レガシー具体化に向けた取組）

- ・ガバナンスの実効性の確保と適切な見直し
- ・国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与
- ・国際スポーツ大会への都民の参画

<ガイドライン改定の概要>（令和5年6月改定）

大会運営組織のガバナンスの確保に向けた体制整備について、上記イ(ア)で掲げた着眼点を精査し、大会運営組織の取組例として以下を追加した。

ア 役員等の適切な選任

- ・選任方針及び選任理由等に関する情報の公表
- ・役員等の行動規範・誓約書の公表

イ コンプライアンスの確保

- ・危機管理及び不祥事対応体制の構築（危機管理マニュアルの策定等）
- ・懲罰制度の構築

ウ 予算・契約・調達の内統制、外部チェックの仕組み

- ・リスクアプローチの監査手法の導入
- ・マーケティング業務の委託等に関する方式の検討経緯や選択理由等の公表

エ 利益相反に伴う問題の防止

- ・専門人材の直接雇用等の対応
- ・民間企業からの出向者の権限の公表

オ 情報公開

- ・都の条例に準じた情報公開制度の導入